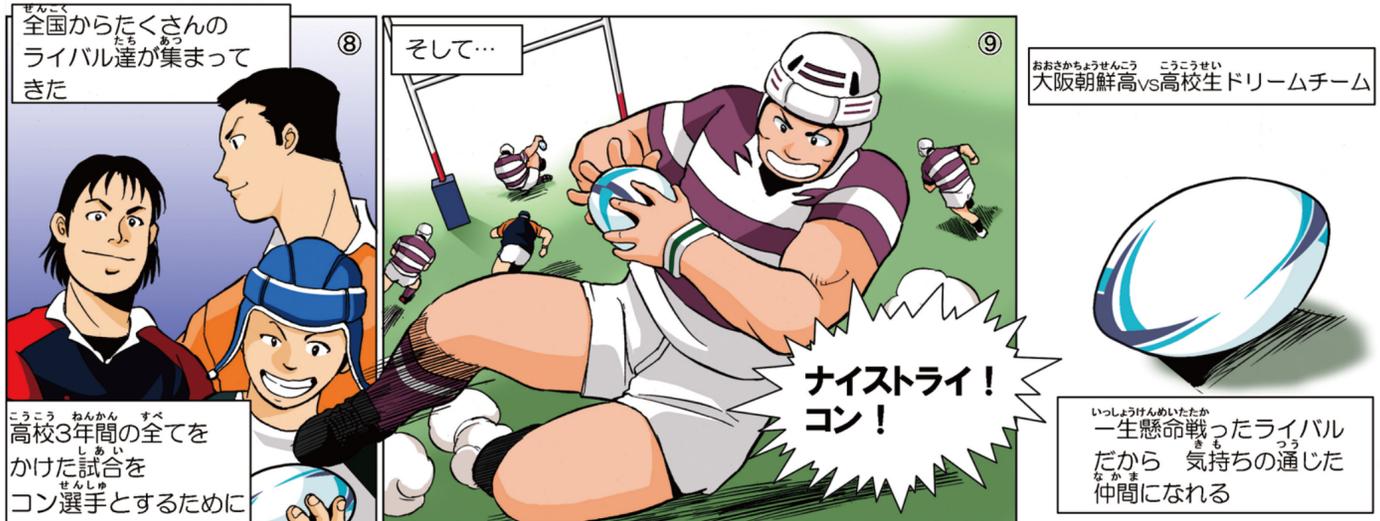


# FAIRPLAY NEWS

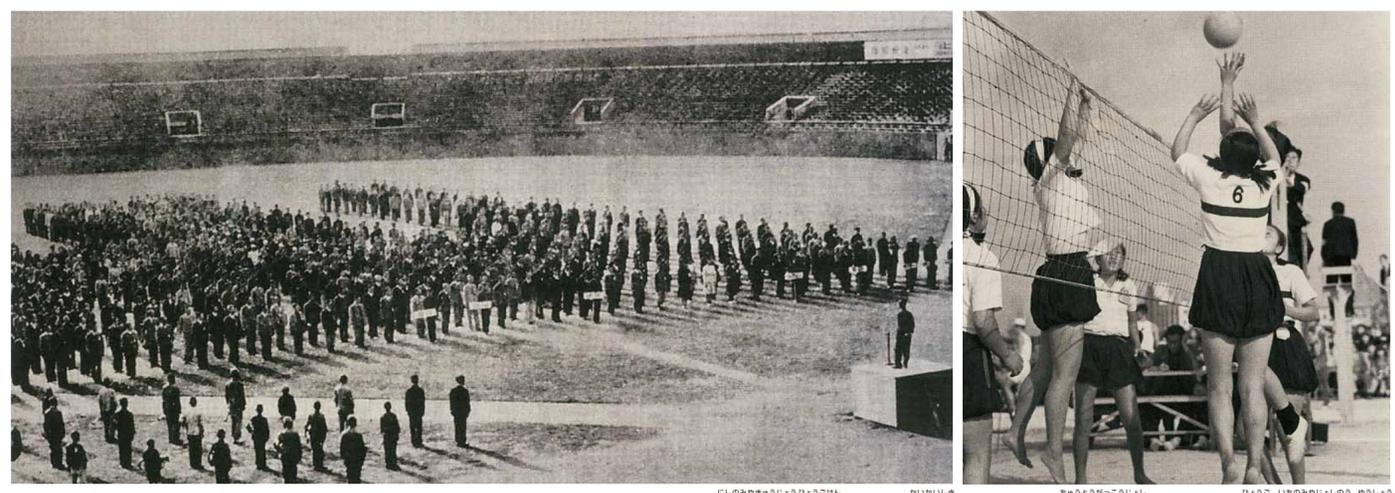
2011年  
5月23日号

## フェアプレイストーリー 高校ラグビードリームチーム



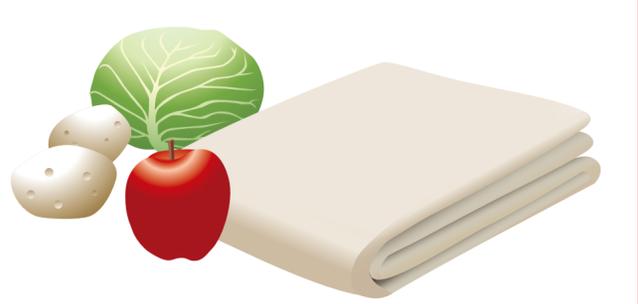
## スポーツ100年 戦後の日本を元気づけた国体

1945年8月に第二次世界大戦が終わるとすぐに、スポーツ界は復興へと動き出しました。そして早くも翌年には「第一回国民体育大会(略して国体)」を、戦争の被害が比較的少なかった京都をはじめとした関西で開催。全国から5,377人の選手が参加し、様々な競技を競い合いました。国体は戦争で傷ついた世の中を、元気づける役割を果たしたのです。その後国体は毎年各地で開催され、スポーツ環境の整備や競技力の向上を支えてきました。今年の秋には、66回目の国体が山口県で開催されます。



## スポーツ豆知識

第一回国体の選手は食料持参だった。



第一回が開催されたのは終戦の翌年。まだまだ戦後の混乱が続いている時です。しかし、選手もスタッフもスポーツへの情熱に燃え、全員が食料と毛布を持参して参加したのです。スポーツ復興の意欲に支えられて成し遂げられた大会でした。

## フェアプレイクイズ

ラグビーには、試合終了のホイッスルが鳴れば、それまで戦った敵も味方もなくお互いの健闘をたたえ合うことというフェアプレイの精神を表す言葉があります。次の中から選んでね。

① オフサイド  
② ノーサイド  
③ シーサイド

こたえは下を見てね!

正々(せいせい)くん  
堂々(どうどう)ちゃん

クイズのこたえ②: 敵・味方という2つのサイドに分かれて試合をしていたチームが、試合終了によって両チームを隔てるサイドがなくなることからノーサイドという言葉ができたのだって。